

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **63-136532**

(43)Date of publication of application : **08.06.1988**

(51)Int.Cl.

H01L 21/324

H01L 21/30

(21)Application number : **61-282843**

(71)Applicant : **NEC KYUSHU LTD**

(22)Date of filing : **27.11.1986**

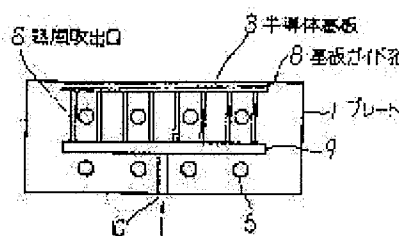
(72)Inventor : **HAYASHIDA SHUICHI**

## (54) THERMAL TREATMENT EQUIPMENT FOR SEMICONDUCTOR SUBSTRATE

(57)Abstract:

PURPOSE: To remove the adhesion of dust and a foreign matter onto a semiconductor substrate by forming a supply opening for hot air floating and holding the semiconductor substrate by pneumatic pressure to the bottom of a substrate guide hole.

CONSTITUTION: A plurality of heaters 5 for heating are buried into a plate 1, and a plurality of hot-air supply openings 6 are provided in suspension. A substrate guide hole 8 is shaped to the upper surface of the plate 1, and the hot-air supply openings 6 are bored to the bottom of said guide hole 8. A gas taken in from an introducing port 10 is controlled at a heating temperature by the heaters 5 in a temperature control chamber 9 set up in the plate 1, and the gas is blown off from the hot-air supply openings 6 as hot air. Previously temperature-controlled hot air in required quantity is blown off from the hot-air supply openings 6, and a substrate 3 is floated up.



⑬ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭63-136532

⑨ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和63年(1988)6月8日

H 01 L 21/324  
21/30

3 6 1

D-7738-5F  
H-7376-5F

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑬ 発明の名称 半導体基板熱処理装置

⑯ 特 願 昭61-282843

⑰ 出 願 昭61(1986)11月27日

⑱ 発 明 者 林 田 秀 一 熊本県熊本市八幡町100番地 九州日本電気株式会社内

⑲ 出 願 人 九州日本電気株式会社 熊本県熊本市八幡町100番地

⑳ 代 理 人 弁理士 菅 野 中

明 細 書

1. 発明の名称

半導体基板熱処理装置

2. 特許請求の範囲

(1) 温度コントロールされたプレート上に半導体基板を搭載して該基板の熱処理を行なう半導体基板熱処理装置において、前記プレートの上面に半導体基板を収容する基板ガイド孔を設け、該基板ガイド孔の底部に、半導体基板を空気圧により浮遊保持する熱風の吹出口を設けたことを特徴とする半導体基板熱処理装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は半導体製造工程において、半導体基板の熱処理を行う半導体基板熱処理装置に関するものである。

〔従来の技術〕

従来、このような装置は第3図に示すように、水平に敷設され温度コントロールされたプレート1にレール2により搬入された半導体基板3を該

プレート1上に真空口2から真空引きして真空吸着させ熱処理を行う構造のものである。

〔発明が解決しようとする問題点〕

上述した従来の半導体基板熱処理装置は、プレート1と半導体基板3が吸着状態で処理されるため、プレート1上にゴミ、異物が付着していると、半導体基板3の吸着面に付着し次工程での処理に悪影響を与え、さらにプレート1と基板3の接触によりゴミが発生するという欠点がある。

本発明の目的は前記問題点を解消し、半導体基板をプレートと非接触で熱処理する半導体基板熱処理装置を提供することにある。

〔問題点を解決するための手段〕

本発明は温度コントロールされたプレート上に半導体基板を搭載して該基板の熱処理を行なう半導体基板熱処理装置において、前記プレートの上面に半導体基板を収容する基板ガイド孔を設け、該基板ガイド孔の底部に、半導体基板を空気圧により浮遊保持する熱風の吹出口を設けたことを特徴とする半導体基板熱処理装置である。

## 〔実施例〕

次に本発明の一実施例について図面を参照して説明する。

第1図、第2図において、平行に敷設された搬送レール2に半導体基板3を支持するクランプ4を設け、レール2、2の間にプレート1を設け、プレート1上にクランプ4を受け入れる凹部1aを設ける。プレート1には内部に複数の加熱用ヒーター5を埋設し、かつ複数の熱風吹出口6を垂設する。さらにプレート1上面に基板ガイド孔8を設け、該ガイド孔8の底部に前記熱風吹出口6を開口する。尚、導入口10から取入れた気体をプレート1内に設けられた温度制御室9でヒーター5により加熱温度コントロールし、これを熱風として熱風吹出口6から吹き出す。

実施例において、基板3が搬送レール2にてa、b方向に移送され基板ガイド孔8にセットされる。第2図に示すように熱風吹出口6からはあらかじめ温度制御された必要量の熱風を吹出して基板3を浮遊させる。

以上の説明から明らかなように基板3はプレート1と非接触の状態では熱処理されるために基板表面へのゴミ付着がなく、接触によるゴミの発生もなくなる。

## 〔発明の効果〕

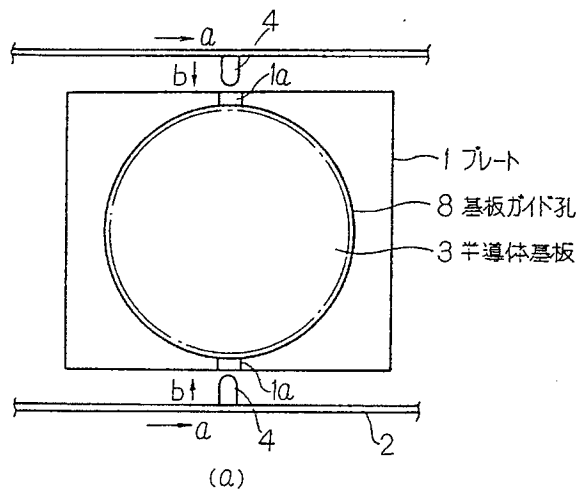
以上説明したように本発明は半導体基板をプレートより浮遊させて熱処理する構造としたため、半導体基板へのゴミ、異物の付着をなくし、さらに接触によるゴミの発生もなくすることができる効果を有するものである。

## 4. 図面の簡単な説明

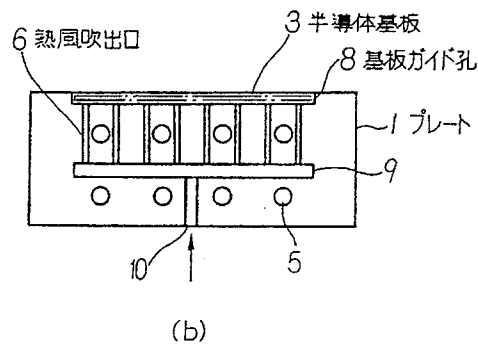
第1図(a)は本発明の一実施例を示す平面図、(b)は同断面図、第2図は第1図の拡大断面図、第3図(a)は従来装置の平面図、(b)は同断面図である。

1…プレート、2…レール、3…半導体基板、4…クランプ、5…ヒーター、6…熱風吹出口、8…基板ガイド孔

特許出願人 九州日本電気株式会社  
代理人 弁理士 菅野 中



第1図



第1図

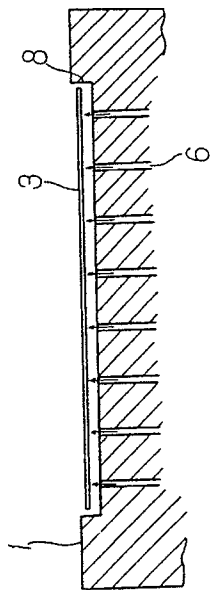
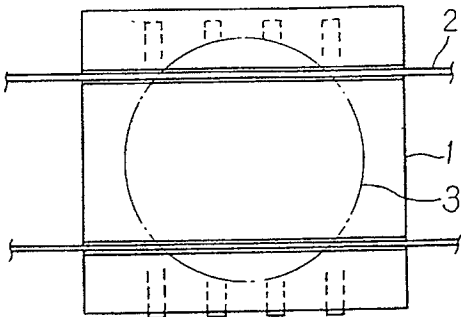
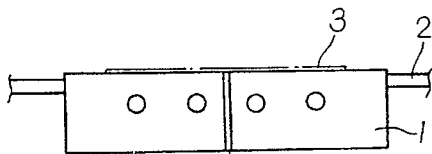


図2



(a)



(b)

第3図